環境学習支援士

１．環境学習支援士とは

県の約６分の１を占める琵琶湖を有する滋賀県においては、環境問題に対する県民の関心は非常に高く、環境学習や環境問題を解決するための実践も盛んに行われている。その一方で今、そうした環境学習や実践を効果的に進めるためのリーダーの養成が重要な課題となっているのである。「環境学習支援士」とは、まさに学校や地域にあって、自ら先頭に立ち、適切な指導・助言を行いながら、環境問題の解決に取り組むことができるリーダーである。

２．学習の流れ

「環境学習支援士」養成プログラムは、「大学の授業の履修」、「実習」、そして「課題研究」の３つから構成される（図１）。

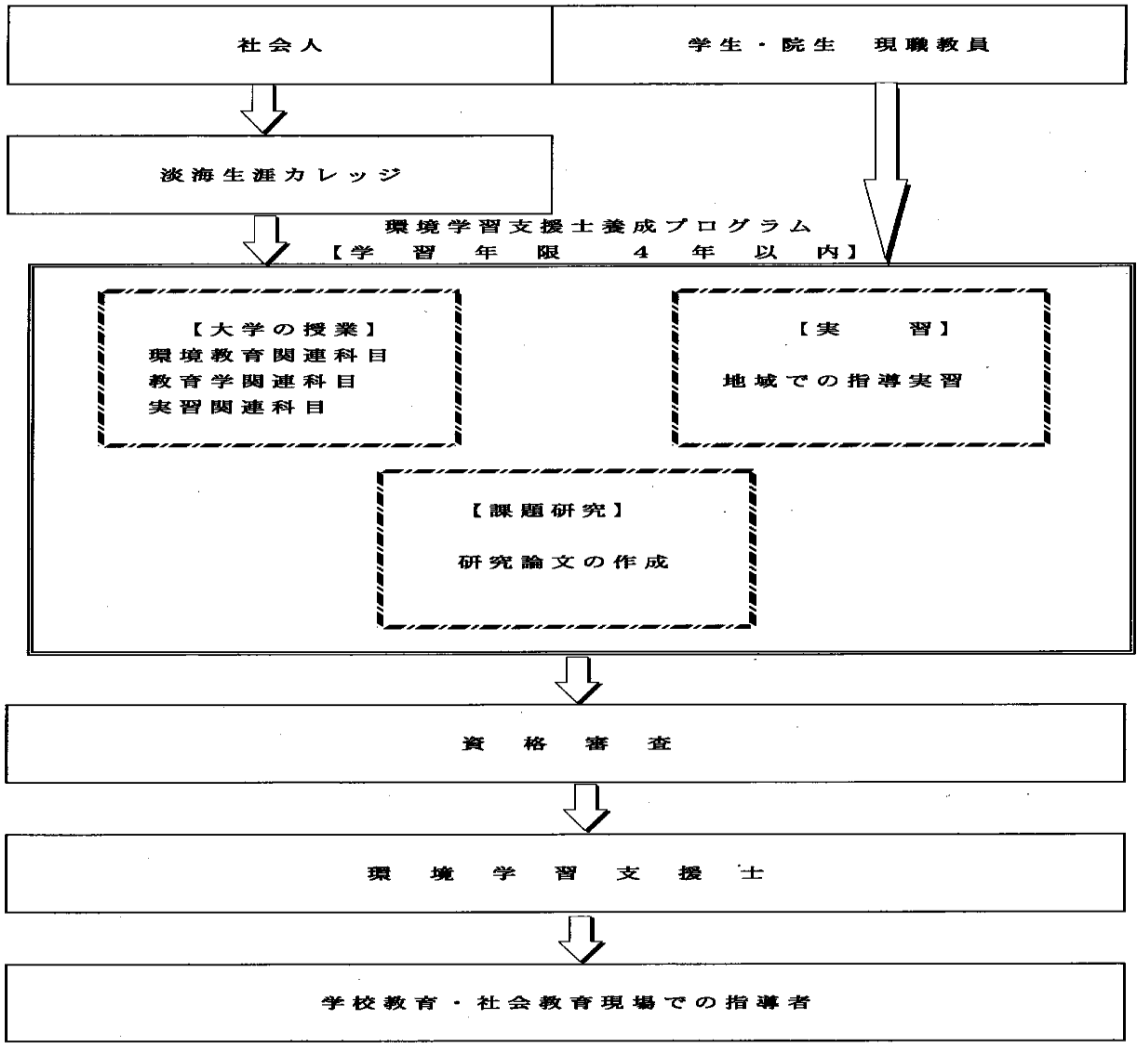

図１　学習の流れ

１）「大学の授業の履修」

指導者としての素養を身につけることができるよう、大学が開講する環境科学・環境教育・教育学関連の科目を 10 科目受講する。そして、試験も学生と同じように受け、指導教員による評価を受ける。

２）「実習」

大学での事前指導を受けた後に、県内の環境教育機関（「県立琵琶湖博物館」、「甲賀市立みなくち子どもの森」等）において、一定期間実習を行う。

３）「課題研究」

受講生各自が研究テーマを決定し、研究論文を作成する。論文の作成に際しては、文献調査のみでなく、フィールドワークを義務づけている。

これらの学習を４年以内（最短２年で修了可能）に修了した受講生には、厳格な審査を経た後に、滋賀大学より「環境学習支援士」の資格が授与されることになる。

３．資格取得者

「環境学習支援士」資格取得者は、平成 30 年度までに、「学生コース」45（女性：31　男性：14）名、「社会人コース」37（女性：14　男性：23）名、「現職教員コース」8（女性：0　男性：8）名、計 90 名である。「環境学習支援士」養成プログラムは、今年度をもって終了する。

４．環境学習支援士の活動

環境学習支援士は、現在、県内のいたるところで活動している。その代表的な活動団体が滋賀大学「環境学習支援士」会である。この団体は、「環境学習支援士」の資格取得者が中心となって結成した環境団体である。大学で学んだ事や、これから学んでいく事を単に知識として蓄えるだけでなく、広く社会に還元していくことを目的として、平成 20 年 4 月に結成された。現在、約 30 名の会員によって、環境学習の出前講座、環境学習企画サポート・コーディネート、環境問題解決への提案、環境学習を支える団体・組織との連携、環境問題の調査、研究活動報告・発信など積極的な活動が展開されている。最近は、3 年連続で、平和堂財団からの助成金を得て、小学校への出前講座である「未来の琵琶湖人育成のための学習支援事業」に力を入れて、活動を進め、過去２年で延べ 31 校 38 回の講座を実施している。

５．環境学習支援士の声

社会人として、会社勤めを終了して、これからの人生をどう生きようかと考えていたときに、滋賀大学の環境学習支援士養成プログラムなるものが出来たというニュースを見て飛びつきました。それまでの私は電機メーカーに 40 年近く勤めて家電商品の開発に邁進していましたので、まったくの未知の世界でしたが、何となくこれからは環境問題が非常に大事になると考えていたので、飛びつきました。20 歳前後の若い学生さんたちと一緒に受ける授業は楽しく、大いに刺激を受けました。たださすがに、60 歳を超えた身には試験は苦痛であったことも、懐かしく思えています。いまでは小学生を相手に、びわ湖についての講義が出来ることは、若いころ学校の先生になりたいと考えていた私にとっては、この上ない喜びであります。ちょうど自分の孫と同じ年頃の子供達のきらきらとしたひとみを感じながらする授業は最高の喜びです。これからも子供たちを相手に、楽しい授業を続けたいと考えております。このような機会を提供してくださった滋賀大に感謝です。

（文責　教授　神部 純一）